

2015年第1四半期中国電子情報産業の動向について

2015年5月7日

JEITA/JLMC北京事務所 胡 夢雲
(JETRO 北京事務所電子情報産業部)

2015年4月20日、中国工業信息化部は、「2015年1～3月の電子情報産業の状況」を発表しました。当所ではその概要と2015年第1四半期中国電子情報産業の固定資産投資状況、及び輸出入状況の発表文書と共に整理し、レポートとしてとりまとめましたので報告します。

【はじめに】

2015年1～3月、中国の電子情報産業の成長率は、各産業の中でも安定的に高水準を維持し好景気を呈した。内需の比重が安定的に上昇しており、地域別にみると中西部地域の高成長が寄与している。製品別では、通信機器関連製品の成長率は若干減少気味であるが、引き続き高水準で推移している。家庭用音響・映像（AV）機器産業も回復し、経済便益は高まり続けている。

一. 概況

1～3月、電子情報産業は穏やかな成長を示した。一定規模以上の電子情報産業の付加価値額は前年比12%増で、前年を0.7ポイント上回り、工業の平均水準を5.6ポイント上回った。電子情報産業の販売高と国内販売額（以下、内販額）は前年比でそれぞれ10%増、14.8%増で、1～2月をそれぞれ0.6ポイント、1.9ポイント上回った。輸出納品額は前年比5.2%増で、成長率は1～2月を0.7ポイント下回った。そのうち、3月の工業付加価値額、販売高、輸出納品額の成長率はそれぞれ12.3%、10.6%、5.7%であった。



図1 2014年～2015年3月工業と電子情報産業の成長率比較

二. 主な特徴

(一) 主要分野は概ね安定成長

通信機器産業の成長率は高水準ながらも小幅で反落した。1～3月、通信機器産業の販売高は前年比12.5%増で、前年を6.3ポイント下回り、平均水準を2.5ポイント上回った。輸出納品額は前年比13.1%増で、前年を2ポイント上回り、平均水準を7.9ポイント上回った。内販額は前年比12%で、前年を14.7ポイント下回り、平均水準を2.8ポイント下回った。通信機器産業の販売高が産業全体に占める比重は18.6%で、各産業のうち2位であり、前年を0.3ポイント上回った。1～3月、産業全体の携帯電話生産台数は3億6,772万台で、前年比1.6%減。移動体通信基地局のチャンネル数は6,635万で、前年比9%減。SPC交換機は350万本で、前年比39.9%減だった。

家庭用AV機器産業は回復傾向を継続した。1～3月、家庭用AV機器産業の販売高は前年比9%増の1,749億円で、成長率は前年を6ポイント上回った。そのうち輸出納品額は前年比0.9%増の798億円で、成長率は前年を5.9ポイント下回った。内販額は前年比16.8%増の951億円で、成長率は前年を16.7ポイント上回った。1～3月、産業全体のカ

ラーテレビ生産台数は同 7.5%増の 3,331 万 6,000 台で、そのうち液晶テレビは同 3.9%増の 3,097 万台であり、カラーテレビ全体に占める比率は 92.9%だった。

電子部品・デバイス産業の成長率は分化した。1～3 月、電子部品産業の成長率は緩やかになり、販売高は前年比 9%増の 3,857 億円で、成長率は 1～2 月と横ばいで、前年を 1.1 ポイント下回り、平均水準を 1 ポイント下回った。輸出納品額は前年比 7.5%減の 1,406 億円で、成長率は前年を 11.3 ポイント下回り、平均水準を 13.5 ポイント下回った。内販額は前年比 21.4%増の 2,451 億円で、前年を 5.8 ポイント上回り、平均水準を 6.6 ポイント上回った。電子デバイス産業は安定成長を維持した。1～3 月、電子デバイス産業の販売高は前年比 14.2%増の 3,649 億円で、平均水準を 4.2 ポイント上回り、成長率は産業全体で首位であった。輸出納品額は前年比 17.2%増の 2,192 億円で、平均水準を 12 ポイント上回った。1～3 月、産業全体の集積回路生産量は 230 億 7,000 万個で、同 12%増だった。半導体素子の生産量は 1,228 億 5,000 万個で、同 5.1%増だった。電子部品の生産量は 7,764 億個で、同 1.6%増加した。

コンピュータ産業が産業全体に占める比重は低下を続けている。1～3 月、コンピュータ産業の販売高は前年比 4.2%増の 5,360 億円で、成長率は 1～2 月より 0.9 ポイント上昇し、前年を 2.9 ポイント上回った。月別の成長率をみると、販売高の成長率はゆっくりと回復しつつあり、2014 年 11 月～2015 年 3 月におけるコンピュータ産業の販売高の成長率はそれぞれ 2.9%、2.9%、3.3%、4.2%だった。2015 年 1～3 月、産業全体に対するコンピュータ産業の寄与率は 9.9%で、1～2 月を 1.6 ポイント上回り、前年同期を 6.2 ポイント上回った。コンピュータ産業が産業全体に占める比重は低下を続けており、1～3 月は 22.1%まで低下し、1～2 月より 0.5 ポイント低下し、前年より 1.8 ポイント低下した。1～3 月、輸出納品額は前年比 0.1%減の 3,849 億円で、1～2 月を 1.9 ポイント上回り、前年同期を 0.7 ポイント上回った。1～3 月、産業全体のマイクロコンピュータの生産台数は前年比 12.8%減の 6,935 万 2,000 台で、そのうちノートパソコンは同 7.5%減の 4,328 万 8,000 台、デジタルカメラの生産台数は同 29.9%減の 412 万台だった。



図2 2013年～2014年主要分野における販売高の成長率比較

(二) 内販額が引き続き拡大

国内の消費市場のけん引作用が次第に強まり、1～3月、一定規模以上の電子情報産業の内販額は前年比14.8%増の1兆2,657億円で、1～2月の成長率を1.9ポイント上回り、平均水準を4.8ポイント上回った。輸出納品額は前年比5.2%増の1兆1,588億円で、1～2月の成長率を0.7ポイント下回り、平均水準を4.8ポイント下回った。内販比率が次第に拡大しており、2014年10月から2015年3月までの内販額と外販額の比はそれぞれ49.7対50.3、49.7対50.3、49.9対50.1、51.8対48.2、52.2対47.8だった。



図3 2013年～2014年内販額と外販額の成長率比較

(三) 東部・中部・西部地域は安定成長を維持、東北部地域の成長は引き続き鈍化

1～3月、東部地域の販売高は前年比7.1%増の1兆8,575億円で、成長率は1～2月を0.6ポイント上回り、平均水準を2.9ポイント下回った。中部地域および西部地域における電子情報産業の販売高は、中部地域で前年比25%増の3,126億円、西部地域で19.3%増の2,241億円で、平均水準をそれぞれ15ポイント、9.3ポイント上回った。東部地域の販売高が全国に占める比重は、前年比2.2ポイント減の76.6%で、中部地域、西部地域の販売高が全国に占める比重は、前年比2.4ポイントの22.1%で、全国の電子情報産業の成長率に対する寄与率は44.7%に達した。東北部地域の販売高は低成長を維持し、販売高は前年比5.6%減の302億円で、成長率は全国平均を15.6ポイント下回り、全国に占める比重は前年を0.4ポイント下回った。

(四) 内資企業の販売高の比重は引き続き拡大、外資企業の販売高の成長率は小幅回復

1～3月、内資企業の販売高は前年比19%増の8,904億円、輸出納品額は前年比15.5%増の1,644億円で、成長率は平均水準をそれぞれ9ポイント、10.3ポイント上回った。内資企業の販売高が全国に占める比重は拡大を続けており、1～3月、内資企業の販売高および輸出納品額が全国に占める比重はそれぞれ前年比4.1ポイント増の36.7%、前年

比1.8ポイント増の14.2%で、1～2月をそれぞれ0.9ポイント、0.2ポイント上回った。香港・マカオ・台湾企業の販売高は前年比10%増の5,878億円で、1～2月を0.3ポイント下回った。輸出納品額は前年比3.4%増の3,625億円で、1～2月を2.3ポイント下回った。外商投資企業の成長率は小幅に回復している。2014年9月～2015年2月、外商投資企業の販売高の成長率は2%、1.7%、1.5%、1.4%、1.3%と低下を続けたが、2015年3月には前年比2.7%へと回復し、1～2月の成長率を1.4ポイント上回り、前年を0.3ポイント上回った。1～3月、外商投資企業の輸出納品額は前年同月比3.9%増の6,320億元、成長率は1～2月を1.9ポイント上回り、前年を4.6ポイント上回った。

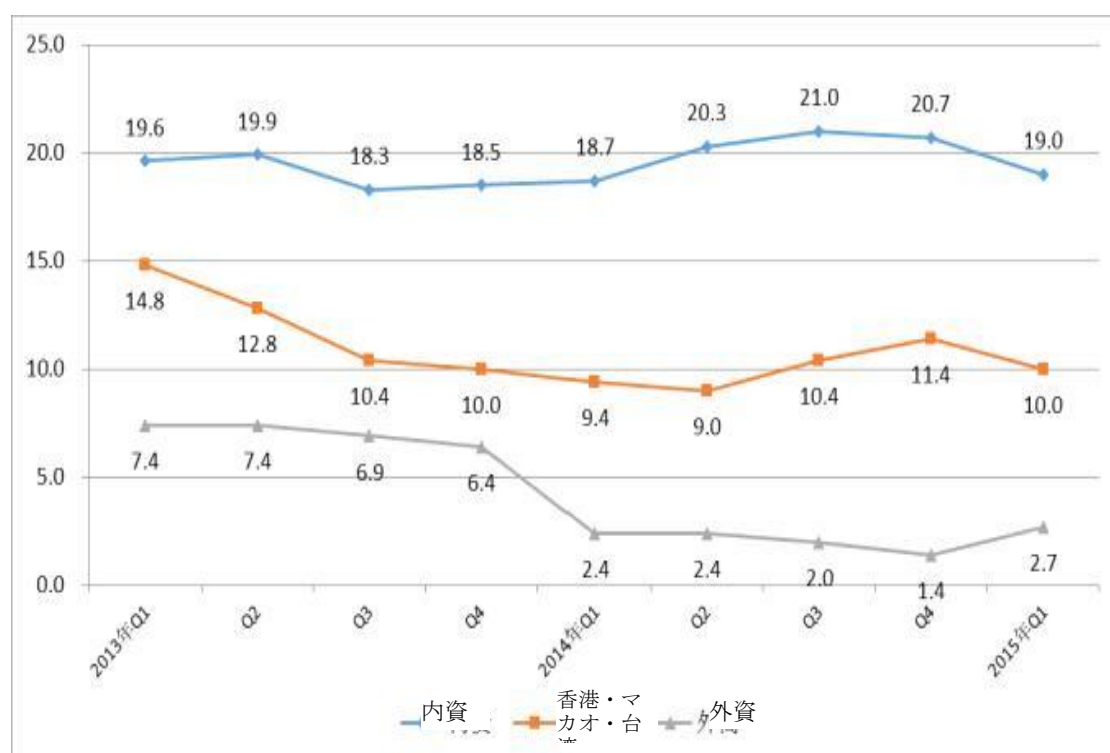


図4 2013年～2014年企業の資本形態別の販売高成長率

(五) 企業便益が絶えず改善、販売高100円あたりの主要業務収益コストは低下

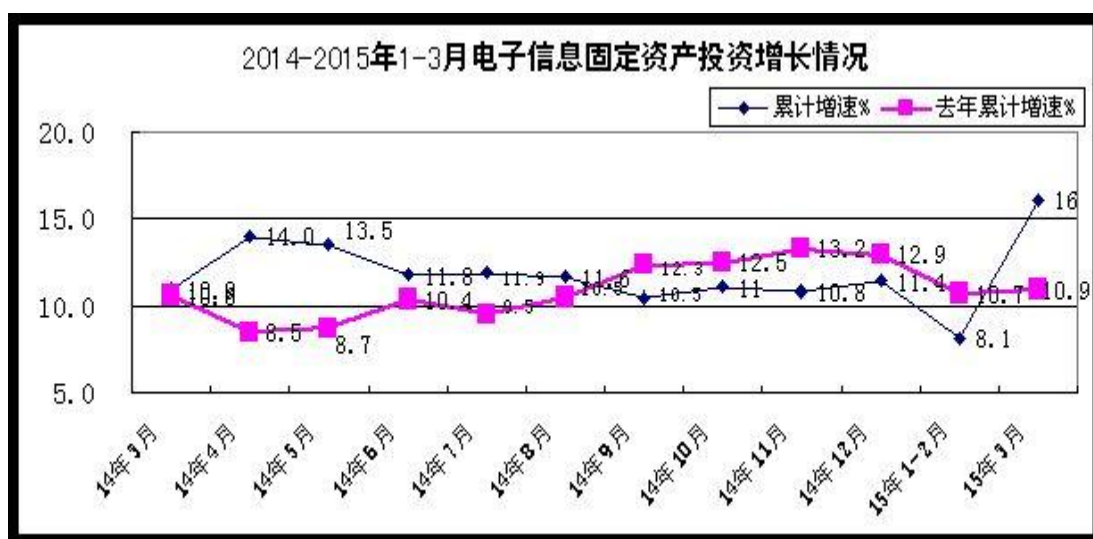
1～2月、産業全体の主要業務収益は前年比11.1%増の1兆4,948億円で、成長率は前年末を1.3ポイント上回り、前年を5.2ポイント上回った。主要業務収益コストは前年比10.7%増で、収益の成長率を0.4ポイント下回り、100円あたりの主要業務収益コストは89.9円で、前年同期を0.4元下回った。産業全体の利益は前年比39.1%増の419億円で、前年末より18.2ポイント上昇し、前年同期を39.1ポイント上回った。産業全体の利益率は2.8%で、前年同期を0.6ポイント上回り、工業の平均水準を2.1ポイント下回った。そのうち、電子デバイス産業と電子部品産業の利益率はそれぞれ3.6%、4.8%で、それ

ぞれ産業全体の平均水準を 0.8 ポイント、2 ポイント上回った。1～2 月、産業全体において損失を計上した企業の比率は 31%で、前年同期より 1.5 ポイント低下した。

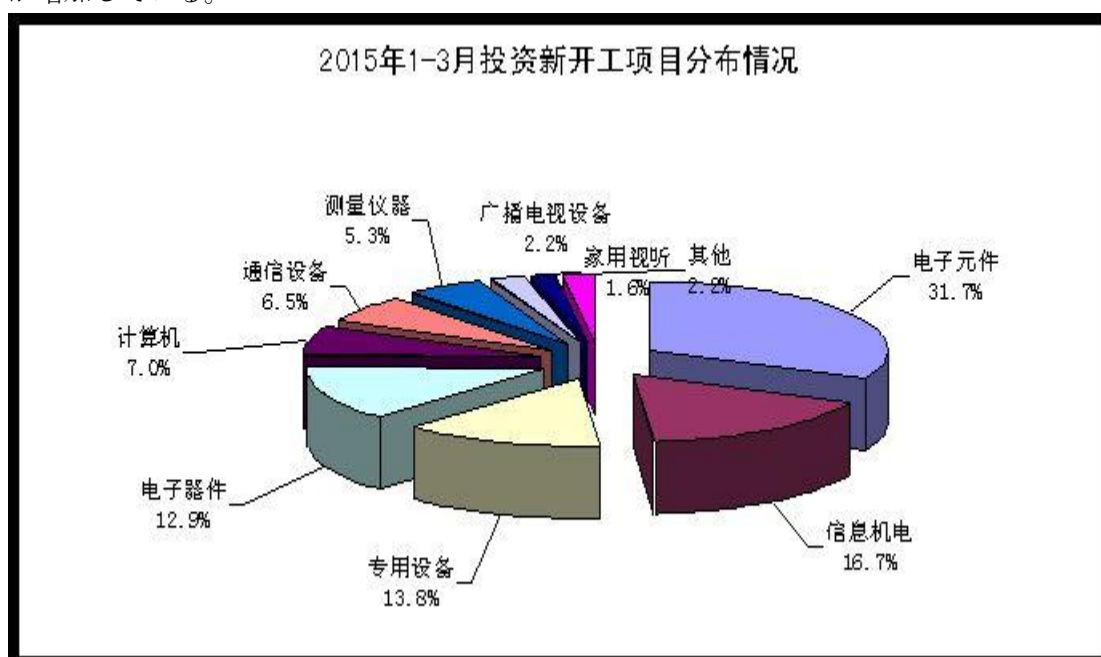
2015年1～3月の電子情報産業固定資産投資状況

2015年1～3月、電子情報産業の固定資産投資が著しく回復し、通信設備、コンピュータなど業界の投資が安定し、新規着工プロジェクトの数が小幅に増加し、香港・マカオ・台湾の投資の回復が顕著である。主な特徴は以下になる。

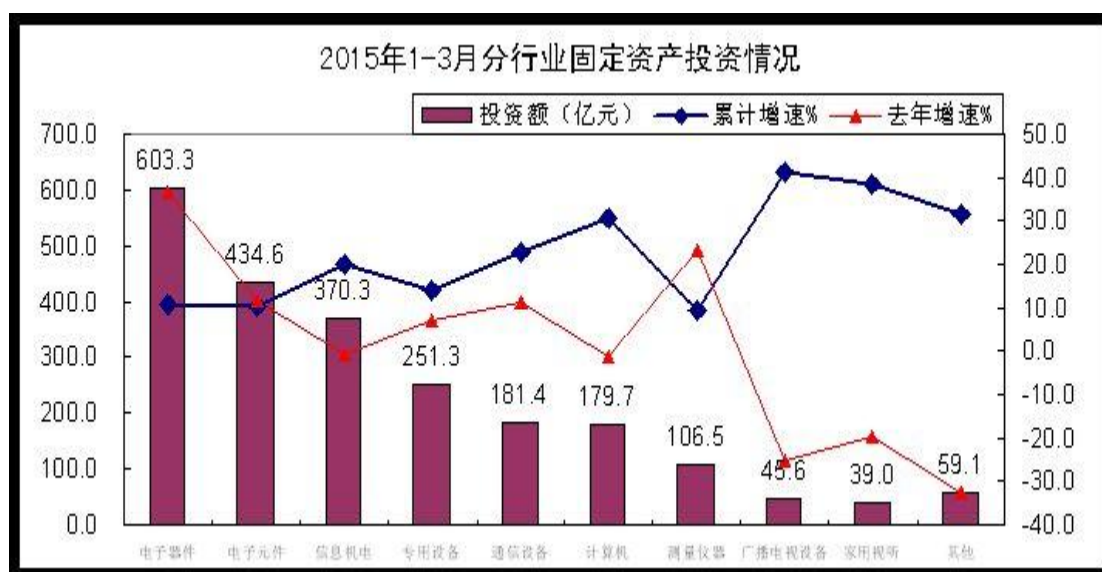
一、投資の増加幅が著しく回復し、新規固定資産が下落し続けている。



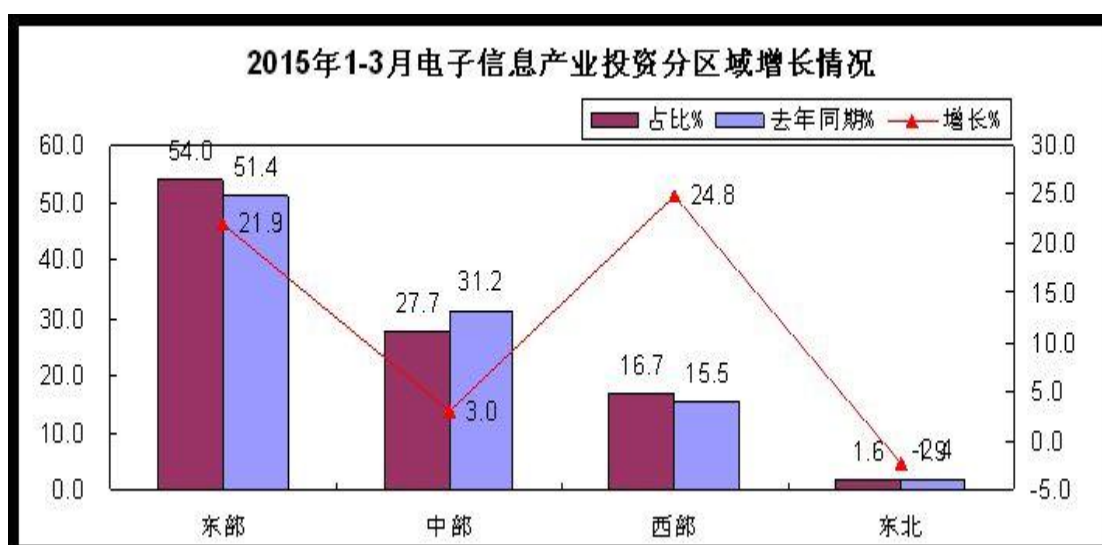
二、新規着工プロジェクトの数が小幅に増加し、多くの分野におけるプロジェクト数が増加している。

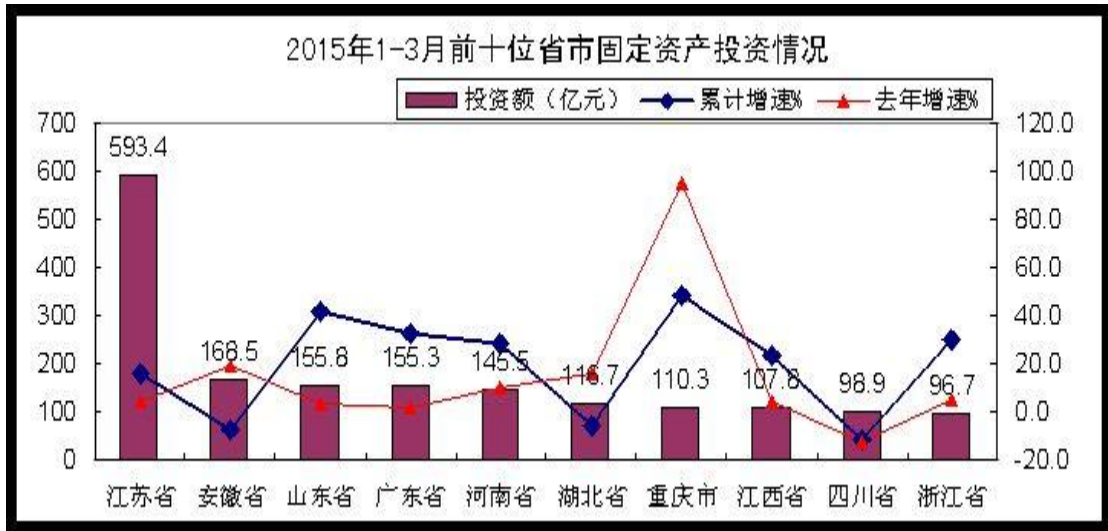


三、通信設備、コンピュータなど業界の投資が安定し、太陽エネルギー関連業界の投資が上昇傾向を呈している。

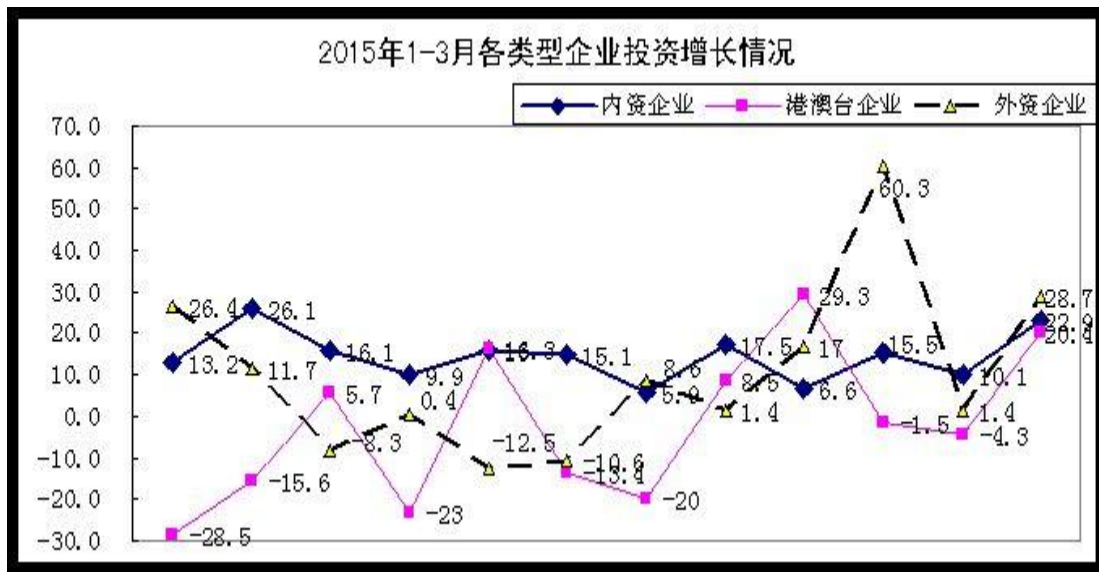


四、東部と西部地域の投資が回復し、中部と東北地域が低迷し続けている。





五、香港・マカオ・台湾の投資が著しく回復し、内資企業、特に民営企業の投資が比較的安定している。



(注：文中で使用したデータは国家统计局によるものである)

2015年1～3月の電子情報製品の輸出入状況

2015年1～3月、中国の電子情報製品の輸出入総額は2,878億米ドルで、同期比0.8%増、1～2月より2.3ポイント低下している。その中、輸出は1,711億米ドルで、同期比1.6%増、1～2月を0.4ポイント上回り、全国の対外貿易輸出の33.7%を占めている。輸入は1,166億米ドルで、同期比0.5%下回り、減少幅は1～2月より0.9ポイント低下し、全国対外貿易輸入の30.2%占めている。3月の電子情報製品輸出額は567億米ドルで、同期比6.6%下回っている。輸入額は42億米ドルで、同期比1.1%上回っている。

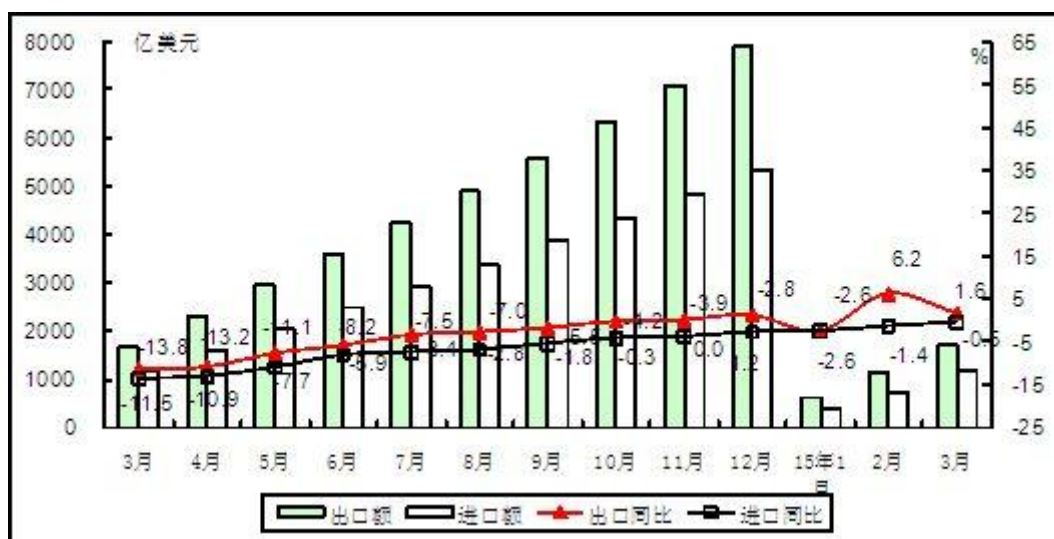


図1 2015 以来の電子情報製品の累計輸出入額

一、主要製品の輸出入状況が異なる



图 2 2015 年 1~3 月 电子情报製品各業界別の輸出状況

二、一般貿易輸出の増加幅は上昇し続けている。

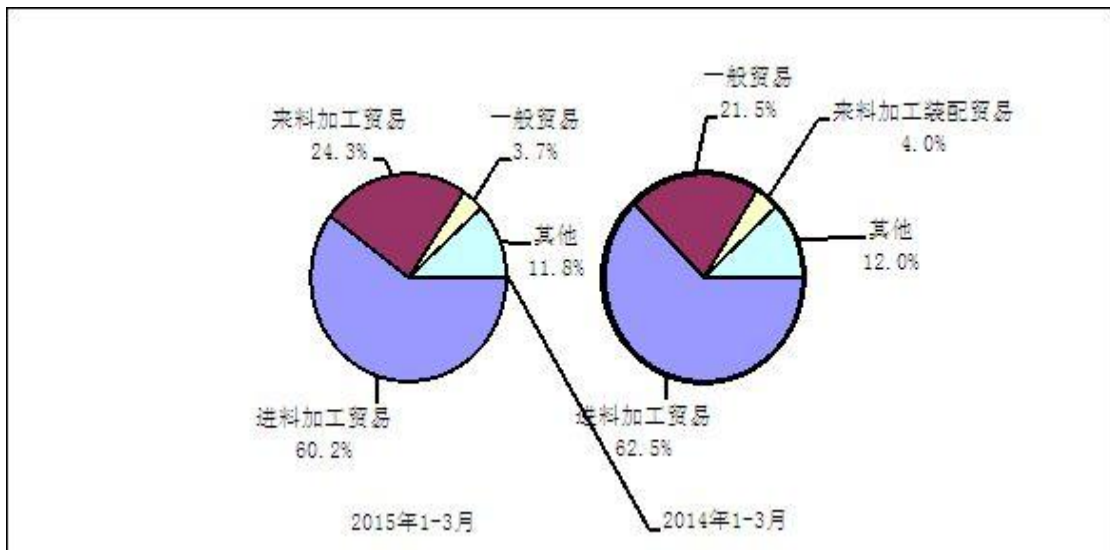


图 3 2015 年と 2014 年の 1~3 月 电子情报製品の主要貿易方式の輸出シェア

三、三資企業の輸出入は減少傾向にある。

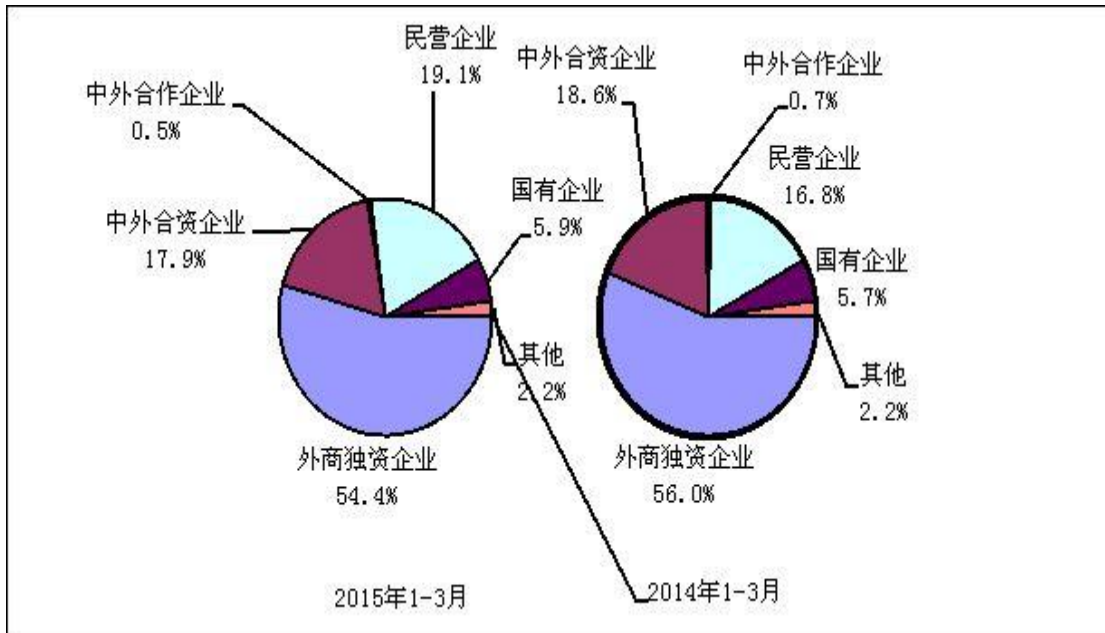


図4、2015年と2014年1～3月電子情報製品各類型企業の輸出シェア

五、対日輸出は引き続き大幅に落ちている。

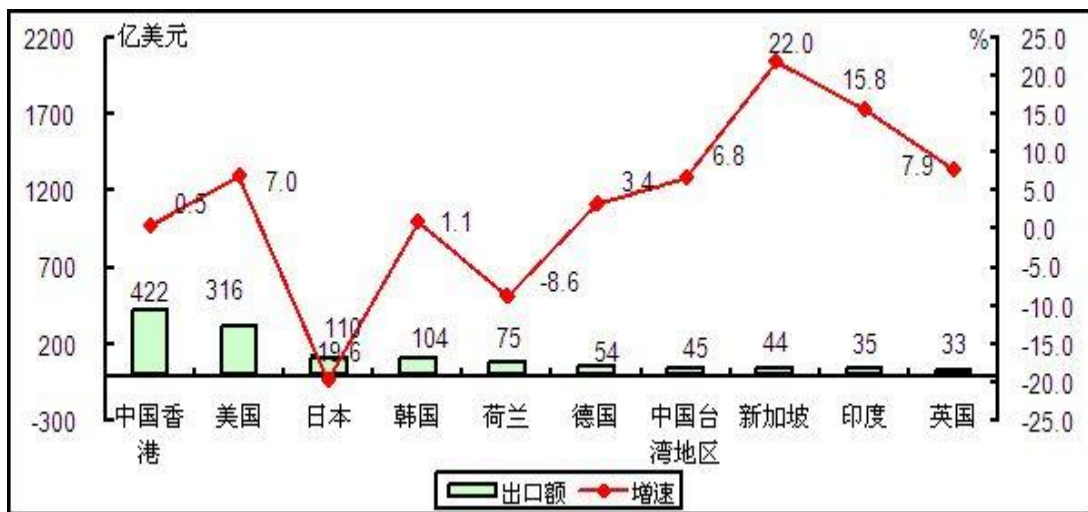


図5、2015年1～3月中国の電子情報製品輸出額トップ10国家と地域

六、主要省と市の輸出入パターンは変わらない。

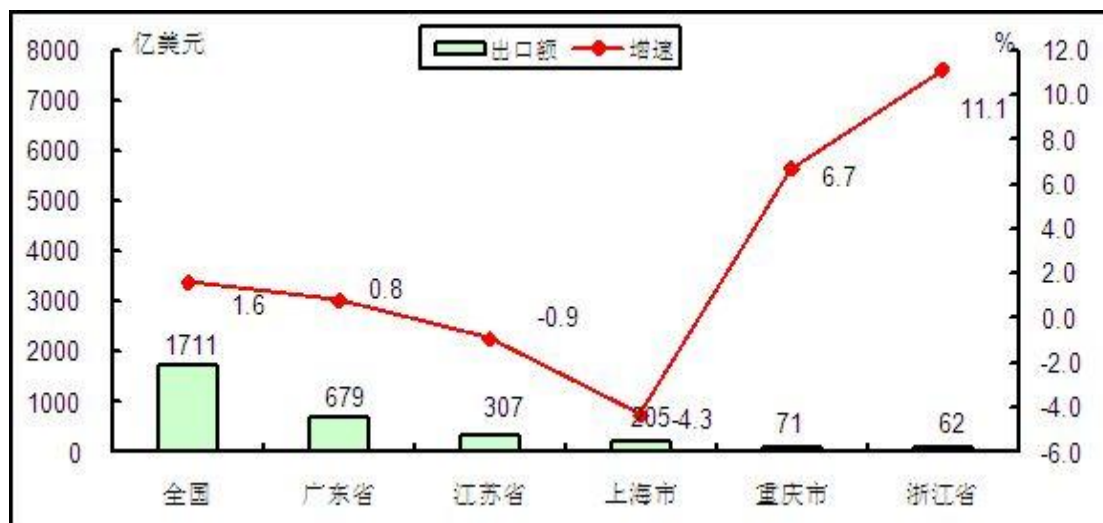


図 6、 2015 年 1～3 月電子情報製品の輸出額トップ 5 省市

(以上)

〈参考〉中国語原文：

<http://www.miit.gov.cn/n11293472/n11293832/n11294132/n12858462/16551715.html>

<http://www.miit.gov.cn/n11293472/n11293832/n11294132/n12858462/16564937.html>

<http://www.miit.gov.cn/n11293472/n11293832/n11294132/n12858462/16564960.html>